
中国情報（砂糖）

2010年3月8日号

©2010年1月における中国の砂糖類市場観測情勢

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2010年1月における中国の砂糖類市場情勢の分析結果について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 国内砂糖価格は6カ月連続して上昇するが、上昇率は鈍化

2010年1月の国内食糖価格の平均卸売価格は1トン当たり5,049元、前月比4.75%高、前年同月比78.3%高となり、2006年以降の最高価格となったが、上昇率は先月より8%低下した。

2 国際砂糖価格は引き続き大幅に上昇

2010年1月のニューヨーク11号原糖平均価格は引き続き大幅に上昇し、月平均価格は同28.1セントで、前月比12.6%高、前年同月の1.29倍となった。

3 食糖の国際価格上昇率は国内価格上昇率より大きく、内外価格差は拡大

2010年1月の食糖輸入価格（珠江三角洲（広州、香港、マカオ、深圳などを含む珠江河口の中国の一大経済圏）の通関後価格（C I F + 関税等）は、1トン当たり7,352元、国内甘蔗糖主産地卸売価格と比較して2,303元高となり、同価格差は2002年以降初めて2300元を上回るとともに、前月より拡大した。

4 2009年の累計食糖輸入量は大幅に増加

海関統計によれば、2009年12月の食糖輸入量は前月比41.6%減の2.0万トンとなった。

2009年の累計食糖輸入量は、前年比36.5%増の106.4万トンとなった。主な輸

輸入先は、キューバ、ブラジル、タイであった。同輸出量は、同2.4%増の6.4万トンとなった。

5 2010/11年度の国内食糖生産量は回復基調

砂糖価格が高騰している状況の下、生産者は積極的にサトウキビの作付を増やし、2010/11年度のサトウキビ作付面積と食糖生産量は回復基調となると予測される。

6 2009/10年度の世界食糖需給は依然として需給ギャップが存在

ISOの11月の予測によれば、インドの食糖生産量のある程度の回復の影響を受け、2009/10年度の世界食糖需給における供給不足は、9月予測（粗糖換算）の840万トンから720万トンに減少し、2008/09年度の供給不足1,040万トンを下回ると予測されている。2010/11年度の同需給については、タイ、ロシア、ブラジルなどの国の増産により、供給は需要を上回ると見込まれている。